

ふるさと雇用再生特別基金事業事例集

平成21年8月

厚生労働省職業安定局
地域雇用対策室

事例紹介

ふるさと雇用再生 特別基金事業

【観光分野】

アテンダント乗務は社史79年間で初めてです。
鈴虫列車、ストーブ列車等季節ごとの列車が好評なので、そういった素地を活かし、更にアテンダントによるおもてなしを加え職員一同皆さんにお会いできることを楽しみにしております。
今回の取組が乗客増加につながれば新たな事業が生み出され、基金事業終了後も雇用を継続できると期待しております。



津軽鉄道株式会社
社長 澤田長二郎さん

事業概要

津軽鉄道沿線を含む奥津軽地域の広域的な観光PRを行うトレインアテンダント(客室乗務員)を雇用し、車内で観光客への名所案内を行う(6月14日から乗務を開始)

委託先

津軽鉄道株式会社
(本社:青森県五所川原市)
従業員数35人

新たな
雇用創出数

7人

事業費

約1,648万円(平成21年度)

事業の開始

平成21年4月～

青森県



地域雇用失業情勢

(事業開始時点の有効求人倍率)

青森県 0.27倍(季節調整値)
五所川原 0.11倍(原数値)
管内

業務内容

列車内での観光客への名所案内のほか、高齢者の列車乗り降りの手伝い、地域イベントでの司会

津軽鉄道のホームページ作成、沿線各駅に観光のぼりの設置、首都圏旅行エージェントへのセールス活動

1日5名体制(2交代制)。1人1日あたり3往復の列車に乗務。20本(10往復)の各列車に1～2名が乗務。



《「クイズで津軽弁講座。ケヤグ=友達??」》

客室乗務員の
みなさん

観光PRの説明に熱が入り、通路にしゃがみ込んで話しかけたり、時には一緒に記念撮影も。



アテンダント
竹内琴恵さん

観光客の方はもちろん、地元の方にもこの津鉄で奥津軽の魅力を感じてほしい。



アテンダント
葛西麗理さん

観光客が増え、周辺地域の発展につながればそれが私どもの願いです。そして若い人も魅力を感じる鉄道にしていきたい。



《100%の笑顔でお出迎え》

お客さまから
の声

乗客からは、好評の声が多数寄せられ、地域における雇用創出の事業として順調な走り出し。

地元の人ならではの丁寧な観光案内はありがたい。手作りの飾りつけに暖かみを感じた。

津軽弁が新鮮で、雰囲気がとてもよかった。



《七タ列車「おねがいごとをどうぞ」》

今後の姿と
課題

太宰治生誕100年や東北新幹線全線開業を追い風に、地域全体の観光客の増加を目指す。更にトレインアテンダント効果が出るようなアイデアや工夫が鍵に。



管理・企画グループリーダー
澁谷房子さん

列車に乗り込むアテンダントの笑顔からやりがいのある仕事についている喜びを感じます。そんな彼女たちとの感動の出会い、ブログでござんください。

<http://okutsugaru0615.blog54.fc2.com/>



《津鉄は今日も走り続けます》